

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年8月29日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	香港大学LLICプログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要
香港大学は、香港の市街中心に位置する世界でもトップクラスの大学です。一週間の簡単な講義を受講した後、上海で9週間のインターンシッププログラムに参加します。
参加した動機
長期留学後の夏季休暇を有意義に使うためです。
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
香港大学からの書類が、締め切り直前に送られてくることがあります。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
香港の学生ビザは香港大学からの指示に従って取得しました。アメリカでA4の紙が手に入らず苦労しましたが、実はLetterサイズでも問題はなかったようです。中国のMビザ(Two Entries)はサンフランシスコの中国大使館で取得しました。
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
常備薬は日本から持参しました。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
東大で指定された保険に加入しました。OSSMAには加入しませんでした。
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
長期留学から継続して休学していました。単位申請予定はありません。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英語は問題ありませんでしたが、中国語が全く分からないため職場で苦勞することになりました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

中国語の勉強を強くお勧めします。
職場で手持無沙汰になった時のために、本や自習用の問題集があると時間を有意義に使えらると思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

講義を予習・復習する必要はありません。後半の講義を担当されたディクソン教授は日本のサブカルチャーや文化外交を研究対象の一環としているため、興味のある方は話してみると面白いと思います。

②学習・研究面でのアドバイス

香港大の講義は中国の経済成長に関する基本的な事項の復習です。、会社によってはインターンシップ先で時間が余るため、本や勉強道具の用意を強くお勧めします。

③語学面での苦勞・アドバイス等

中国語の語学要件が無いにも関わらず、実際のところ私のオフィスは中国語中心だったため、自分から仕事を要求しない限り業務には関わられませんでしたし、もしそれが出来たとしてもオフィスが実際に必要としている業務では無かったと思います。中国語が出来ると仕事の幅が広がります。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

プログラムで用意して頂いたホテルのツインルームに宿泊しました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

7月半ばの上海は連日40°Cを超えていました。中国で携帯電話を使うに当たって、プログラムのメンバーと共にプリペイドSIMカードを購入しました(3ヶ月で120元)。VPNはアプリの取得が中国で徐々に困難になっているようなので、日本で準備していくことをお勧めします。上海ではクレジットカードが普及していないため、ATMで現金を引き出していました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

非常に安全です。厳しい暑さと脂の多い食事のため、プログラム中の数人が体調を崩していました。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券は格安航空券で片道1万5千円~2万円ほど。上海での携帯電話は6, 7, 8月の三ヶ月で120元と格安。中国での食事は一日100元あれば充分でした。食事、旅行、娯楽など全ての出費を合わせて20万円ほどだと思えます。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Fung Scholarshipsから14万円の奨学金を頂きました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末は上海を観光したり、南京、北京、蘇州、杭州へ旅行したりしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

学生がインターンシップ先を選択できないため、配属先によって扱いに大きな差があります。私の会社は毎年インターン生を受け入れているにも関わらず、扱い方に関するノウハウが皆無だったため、初めの一週間、最後の二週間は文字通りなんの業務も無くデスクに放置されました。上司に相談して解決しましたが、香港大の担当者に連絡した場合も何かしらの対処はして頂けるようです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

香港大学は図書館を利用することができました。上海のホテルは冷蔵庫と湯沸かしが備え付けですが、キッチンと電子レンジはありません。小さなジムがありました。ホテルのWifiは遅いです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

仕事が無いことに関して上司に相談したところ、たまに簡単な英語のリサーチ・報告書の作成を任されました。しかしその後再び仕事が無くなったため、休暇をとって旅行することに専念しました。このプログラムはある意味でも柔軟性が高いと思います。積極的に仕事を取りに行くことも出来ますし、業務に興味が無い場合は休暇を取る、オフィスにいる時間を自分の勉強に使うなども可能です。会社に不満があれば香港大学の留学課に相談し、別の会社に行くこともできると思います。インターンシップの満足度は高くありませんが、上海の街も含め中国は見所が多く、非常に楽しく滞在できました。

②参加後の予定

東京大学の学部三年Aセメスターから復学します。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

長期留学後の夏休みの過ごし方としては良いと思いますが、インターンシップの配属先によってプログラムの充実度が左右されてしまいます。わざわざ東京大学を休学するならば、他の大学のサマープログラムをお勧めします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

『地球の歩き方 上海』
『地球の歩き方 中国』
『快速マスター中国語』

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 8月 28日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	LLIC	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学で一週間、その後上海で8週間のインターンシップを行うプログラム。香港大学は蒸し暑いがアジアトップクラスの大学。

参加した動機

昨年度一年間の交換留学をしたが、その後8月まで時間があつたため。また中国に関心を持っていたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあつてのアドバイスなど)

ホームページの指示通りに行えば特に問題ありません。留学中の申し込みで海外からでしたが、東大の担当者(学部、本部)の方にさまざまに配慮していただきました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあつてのアドバイスなど)

中国のMビザを取得するように指示されますが、イギリスやアメリカでの申請ではインターンシップでMビザを発行できないといわれることもありました。早めの確認をおすすめします。(日本での申請は問題ありませんでした。)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大から付帯海学加入を義務付けられる他、香港大側でも別途保険加入を行っていただいたようです。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英語はできましたが、中国語はほぼできませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

香港でも上海でも日本製のものが大量に売られています。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

香港大の授業は予習復習が必要な感じではなく、話をきくだけ、といった感じです。インターンシップは人によって仕事量が異なりますが、上司に完全に放置され仕事がなかった人も多いです。

②学習・研究面でのアドバイス

③語学面での苦労・アドバイス等

中国語が話せるとインターン先での会話がよりスムーズになると思います。インターン先の人々は英語が話せる人もいる、くらいの感じです。僕はあまり話せなかったのでGoogle翻訳が大活躍しました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

(おそらく昨年度とは異なる)上海のホテルに宿泊しました。ツインルームをルームシェアしました。場所は便利でしたが、wifiが遅かったりエアコンが壊れたりしました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

香港も上海も無茶苦茶暑いです。食事はすべて外食ですが、安くておいしいので大丈夫です。お金はデビットカードを用いATMから引き出しました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気がつけた点など)
治安はよいです。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
かかるのは香港までの航空券代と食費、現地交通費、その他雑費(旅行にいくなら旅行代)です。トータルで20万円ほどでしょうか。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東大経由で全員いただける奨学金と、トビタテを併用しました。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末は旅行に行けます。蘇州、南京などに行きました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
プログラムコーディネーターがサポートしてくれます。また中国語を話せる参加者がたくさんいるので彼らが助けてくれます。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
ホテルには(エアコンの壊れた)ジムがありました。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
例年報告書に書かれていますが、インターンで仕事をもらえるかは運次第なところもあり、「職場でしごかれ成長する」といったプログラムでは決してありません。ただ、中国に二か月住めるということ、また優秀な他の大学生(オックスフォードや香港大等)と共同生活できるということはよい経験だったと思います。
②参加後の予定
法学部に戻り学部の勉強を継続します。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

時間があるのなら、積極的に参加を考えてみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8月 29日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	LLICプログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港を代表する総合大学で、香港島西部に位置しています。

参加した動機

6月に交換留学を終え、新学期が始まるまでの間の空白期間を埋める活動として、大変便利な長さ・時期のプログラムであったということがまず一点としてあります。加えて、受給していたトビタテ! 留学奨学金の受給要件である「海外実践活動」として、本プログラムに含まれている「海外インターンシップ」を活用することができる、という点も参加検討の重要なきっかけでした。そして何より、政治経済から生活文化に至るまで、中国に強い関心を抱いていた私にとって、恵まれた条件のもと上海に二カ月滞在することができるという本プログラムは大変魅力的でした。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東京大学による書類選考の後、香港大学の事務の方とのSkype面接があります。交換留学中の方が海外から参加手続きを行う場合、東大への書類提出(成績証明書の発行・提出など)で困難を感じる事があるかと思いますが、物理的な制約に関しては東大の事務の方に早い段階で逐一確認・相談することを推奨します。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

香港ビザと中国ビザの発行が必要となります。中国ビザに関して、留学の都合上英国マンチェスターにて申請を行いましたが、ビザセンターの方とのやりとりが不明確に終わってしまったことがままありました。日程的に可能であれば日本の中国ビザセンターで取得する方が確実かと思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

中国では油の多い食事が続くので、お腹が弱い方は胃腸薬等を持参すると便利かもしれません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大より指定される付帯海外保険に加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
四年生のSセメスターは交換留学のためもともと履修を予定しておらず、本プログラムの参加によって改めて手続き等を行わなければならないということはありませんでした。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英語に関しては、プログラム応募時にIELTS7.0を所持しておりました。中国語に関しては、駒場の第二外国語として選択しており、HSK4級も所持していたので、香港大学による面接の際には一応それらをアピールしました。(実態としては日常会話すら覚束ないレベルでしたが。)
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
VPNの準備は中国到着前にしておいた方がよいと思います。もし海外の大学に交換留学をしてからこのプログラムに参加される方がいたら、留学先の大学が提供するVPNが便利かもしれません。私の場合は交換留学先の大学のVPNが最も快適に使用できました。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
最初の一週間の香港大学での講義はおまけ程度の扱いで目新しいものではありません。上海でのインターンシップに関しては、配属されるインターン先によって経験する内容・状況は大きく異なるかと思います。私が配属された企業はLi and Fung という香港系の卸業を取り扱う会社で、私以外に香港大学とコーネル大学からの参加者が一名ずつ一緒に配属されました。
②学習・研究面でのアドバイス
香港大学の講義期間が、実質的に唯一、参加学生全員で行動するオフィシャルな機会となるため、この期間の間に、上海での配属先が異なる学生とも積極的に会話しておく、上海に行ってから幅広く人間関係を築けるようになるかと思います。
③語学面での苦勞・アドバイス等
やはり英語だけでなく中国語を不自由なく扱えると、インターンシップ先での仕事の幅は大きく広がるだろうという印象がありました。また、本プログラムの参加者の多くは、仮に英米から来ている学生であっても中国語の習得に関心がある学生ばかりなので、日常的に中国語を学ぶことを厭わないという姿勢も大切かと思います。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
香港大学の手配のもと、香港では大学の寮に、上海では市内のホテルに宿泊しました。いずれも一つの部屋を二人でシェアする形式でしたが、どちらも二人用としては必要最低限の大きさで、特に上海ではそれが二カ月続いたため、一人の空間が欲しいと感じることも時折ありました。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
上海市を出て中国国内の観光に行く際であっても、外国人の場合必ず高速鉄道の出発駅でパスポートのチェックがありました。うっかり忘れないよう留意すると良いかと思います。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は概ね良く、タクシーでのトラブルなども上海市では一切ありませんでした。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
人によって変動するかと思いますが、基本的には香港までの交通費と日々の生活費以外は私費を要しないため、大学から頂いた奨学金ないし月々のトビタテ奨学金で十分に余りある程でした。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
14万円(Fung Scholarship Foundation. 申請時に原則支給される) 26万円(トビタテ！留学JAPAN奨学金。6月、7月の二月分頂いた)
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末は他の参加者とともに、蘇州や南京といった周辺の都市に観光に行ったり、あるいは上海にある娯楽施設や遊園地に行ったりしました。平日の夕方以降も、毎日外食をすることになるというプログラムの性質上、頻りに遊びに出かけました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
特に不都合はありませんでした。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
香港大学の設備に関しては、講義室を除いて特に利用することのないまま終わりました。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
インターンシップに関しては、例年の体験記にもある通り雑用の域を超えるものではなく、読書に時間を費やすこともままありました。ただし職場の方々には大変に親切にいただき、食事会や工場見学などにも同行させてもらったので、実際に上海で働く人々と極めて近い距離感で、彼らのビジネスを観察することができたというのは良い経験であったと思います。また、参加者の多くが中国や東アジア全般に関心のある学生ばかりだったので、彼らとの日常的な会話の中においても、中国の風土・社会に関する新しい発見を共有し楽しむことができたのは、実り多い経験でした。
②参加後の予定
法学部での勉強を再開しつつ、就職活動に備える予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

本プログラムは、その中心的活動たるインターンシップ活動の評判があまり良くないため敬遠されがちかもしれませんが、「中国」という共通の関心を抱いた学生と、二ヶ月間近い距離で生活をともにする、という経験は、非常に豊かな発見と人間関係を私に与えてくれたように思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

